

＜今日の説教のポイント イザヤ書 11 章 1～5 節＞

ぽっと出でない救い主 → 次はその方に神様が込められた内容に注目。

① (1) ぽっと出でない聖書の救い主 — 出現納得の歴史を持つ！

待降節に読んで来たイザヤ書から知らされたことは、イエス様の出現は少しも不思議ではないということです。「エッサイの株から一つの芽が萌えいで」も、昔神様が与えて下さったエッサイの子ダビデのような王を再び与えて下さるのだと語っています。キリストは、神様が一度与えて下さった事実を知っているからこそ期待できる救い主なのです。聖書を読むとは、聖書に記された神の救済の歴史を知ることなのです。

② (2-3a) 救い主は、神様からの真の知識と勇気を持つ方！

ではその救い主とはどういう方なのか？ そのことがここから知らされます。「その上に主の霊が留まる」、「知恵と識別の霊」、「思慮と勇気の霊」、「主を知り、恐れ敬う霊」とあります。主、すなわち神様の知識と勇気を持つ救い主だとしたら、私たちはその方に聞き従うべきなのではないでしょうか。11 世紀の人アンセルムスは、「我、知解せんがために信ず」と言いました。「信ぜんがために知解す」ではありません。神様の知恵は私たちの知恵をはるか超えています。よって、「私たちが持つ知恵や知識で理解できたら信じてやろう」は順番が逆なのです。この方を通して真の神様を覚えて生きる（主を知り、恐れ敬う）者になることが先、その時に真の知恵と勇気を持つ者になれるのです。

③ (3b-5) 救い主は、弱き者貧しき者を守る視点を重視される方！

ここには、神様を畏れ、真の知恵と真の勇気を持った救い主の倫理的な面が示されていると言えるでしょう。それは、弱い者や貧しい者を守ることを重視した視点を持った裁き（ジャッジメント、判定）をする救い主であるという内容です。これは決して当り前の内容ではありません。貧困の連鎖、医学部入試の不正問題、先進国と開発途上国の歴然たる格差、それらに対する現実世界の裁きは決して弱き者貧しき者の側に立った裁きとは言えません。しかし、そうではない、弱き者貧しき者の側に立った判定を為された方が与えられたのではないのでしょうか。イエス・キリストです！ 大事なことは、神に対する罪の点では、全ての者がこの救い主の判定を必要とする者の側に立っているということです。